平成14年1月1日　第1323号　発行：湯沢町役場総務課

広報 ゆざわ

湯沢町町民憲章

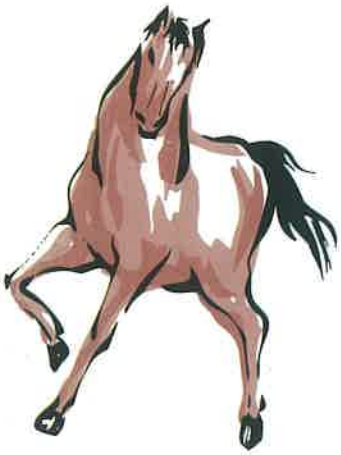
わたしたちのねがい

美しい自然につつまれた雪のまち湯沢
清らかな愛情あふれるまち
すこやかな活力みなぎるまち
さわやかな誰もが訪れたいまち
みんなで力をあわせ
豊かで明るく住みよい
文化の香り高いまちをつくりましょう

あけまして
おめでとうございます

新春を迎え
皆様のご多幸を
お祈り申し上げます

平成十四年元旦



日本には中世の時代から現代に至るまで子どもたちによって楽しまれている伝統的な遊びが沢山あります。時代の移り変わりの中で、昔ほどには、楽しむ機会は減ったものもありますが、今でも、子ども達が夢中になる遊びもあります。それらはよくお正月の遊びとして親しまれています。その代表的なものに「こま」があります。

こまは1，000年ほど前に中国から日本に伝えられました。江戸時代になるとベーゴマというこまが登場しました。ベーゴマは、木や鉄で作った小さなこまですが、ひもを使って回し、その回る勢いで、相手のベーゴマを枠の外へはじきだす遊びです。日本ではその他にも音の出る唐ごま（うなりごま）、よく回ることで知られる博多ごまなどさまざまなこまがつくり出されました。

このお正月、昔の遊びを思い出して、家族で楽しんでみてはいかがでしょうか。

新年のごあいさつ

湯沢町長　村山　隆征



明けましておめでとうございます。謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、皇太子同妃両殿下に敬宮愛子さまがご誕生され、町民と共に心から御祝福申し上げます。

日頃より、町民の皆様からは町政各般にわたるご支援、ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

この度、町民の皆様をはじめ多くの方々の力強いご支援を賜り、四たび当選の栄に浴し、引き続き、町政の重責を担うこととなりました。心を新たにして町政運営に全力で取り組んでまいります。一層のご協力をお願い申し上げます。

現在の日本は、景気の長期的低迷が続き、地域経済も活力を失った厳しい状況にあります。国は経済の再生に向けて多くの面で構造改革を進めようとしています。こうした中で活力ある地域社会を構築するためには、地方分権をより一層推進し、地方自立のための基盤の強化を図り、自主的な行政を行っていくことが重要であると考えます。

町の行政改革については、時代に即応した組織機構や事務事業等を見直してきましたが、引き続き「第三次湯沢町行政改革大綱」を定めまして、改革を積極的に推進し、公務の効率化を図り、町民に開かれた行政サービスの向上に取り組んでまいります。

平成13年度を初年度とする10ヵ年の「湯沢町総合計画」を策定いたしました。「人と自然の営みを守り育てるまちづくり」を目指し、新たなまちづくりを進めてまいる所存であります。

町の重要施策であります保健医療センター建設は、今年8月開設に向けて工事を進めています。㈳地域医療振興協会に管理運営を委託し、保健・医療・介護・福祉を一体化したサービスの充実を図ってまいります。

町民が安心して暮らし、心の支えとなる保健医療センターを目指し、町が㈳地域医療振興協会と信頼のもとに着実に運営できるよう努めてまいります。町民の皆様のご理解、ご協力をお願いするものであります。

長年の懸案事業であります清津川ダム事業については、大きな課題となっていますが、国土交通省に対して実施調査計画促進の予算を要望いたしております。

昨年3月、地元ダム対策協議会から、国、県に提出されました「生活再建、地域整備計画(案)」について、清津川ダム調査事務所、新潟県、地元ダム対策協議会と湯沢町の4者で協議を行っているところであります。町は、調整役を果たし、問題の早期解決に向けて努力いたします。

一方、平成12年に国の事業評価監視委員会の意見を受け、昨年、7月12日に「清津川ダム専門委員会」が設置され、信濃川水系の治水、利水環境面の観点から、清津川ダム事業の代替案を含めた検討が進められているところであります。

町村合併問題については、町民の皆様のご意見等を尊重し、議会と十分協議しながら慎重に対応していきたいと考えます。いずれご意見等をお聞きする機会を設けたいと考えております。

高度情報化、少子・高齢化等、社会経済が大きく変化しております。時代の潮流に対応しながら、町民のニーズに応えてまいる所存であります。

町民の皆様の益々のご健康とご多幸をご祈念して、新年のごあいさつとさせていただきます。



年頭のごあいさつ

湯沢町議会議長　山本　邦悦



新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は、皇室におきまして、敬宮愛子さまが誕生され、国中が歓迎に沸きました。健やかな成長をお祈りいたします。スポーツ界では、アメリカ大リーグで、イチロー選手が、新人賞とＭＶＰを受賞するなど、日本人選手の活躍が報道されました。しかし、一方で、アメリカの国際貿易センタービル爆破事件に始まる一連のテロ騒動から、日本は、自衛隊の海外派遣を行い、世界平和に積極的に貢献していく姿勢を明確に打ち出しました。これについては国連を中心に、宗教界をも含めた全世界が武力不行使宣言を行うとともに、徹底した融和政策がとられるよう切に願うものであります。また、世界経済についてみれば、中国のＷＴＯ加盟が認められたことにより、益々世界経済のグローバル化が加速し、日本の生産ラインは、これら低賃金諸国へと、さらに流出していく恐れがあります。この状況が長期化すれば、日本経済は壊滅的な打撃を受け、雇用状況は最悪となることが必至であります。

今、日本はこの対応として、現産業に高い付加価値をつけた新産業の開発及び技術立国へと、産業構造の本格転換が求められており、政府は政治・経済ともにその指導力が問われています。

このような状況下ではありますが、今年、わが町におきまして、高齢化社会に対応した介護及び保健、医療の中核を担う待望の保健医療センターが完成いたします。町民の願いの根本は「健康」であります。このセンターは、私たち湯沢町民すべての財産として、私たち自身が守り育んでいかなければなりません。そのためにも、より便利な交通網の整備を目指して、現在、循環バス構想を検討中であります。

町村合併につきましては、町議会で地方分権調査特別委員会を、南魚４町の議会では郡合併調査特別協議会を発足させ、現在、合併のメリット、デメリットについての勉強会を行っております。今後は、町民の皆様に南魚４町の現状及び他自治体の合併への取り組み状況等の情報提供を行った後に、ご意見をいただき、議会としての意思決定をしていきたいと考えております。

最後になりましたが、当分続くであろう不況の時代に際し、議会といたしましては、国の行財政施策同様、ただ単に新規の設備投資・事業を考えるのではなく、現有施設の用途変更及び現存事業の見直し、集約化を図り、「今、何が真に必要で、町民の皆様は何を求めているのか。」について、十分に論議を尽くし、行政とともに、時流を極めた安全で住みやすい町づくりのために、邁進する所存でございます。

これからも皆様の力強いご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げまして、議会を代表し、新春のごあいさつといたします。



町民新春年賀交歓会

みなさんでともに新年をお祝いしましょう。
お誘い合わせのうえ、お気軽においでください。

【日時】
1月16日（水）18：00～（17：30より受付）

【会場】
湯沢カルチャーセンターアリーナ
（立食パーティ形式）

【会費】
お一人様3，000円
（当日ご持参ください。）

【申込】
（財）湯沢町都市施設公社　TEL 84－1511

【主催】
湯沢町商工会・湯沢町観光協会・（財）湯沢町都市施設公社



今年は午年

人と馬との長いつきあい

「馬には乗ってみろ、人には添うてみろ」「馬の背をわける」「生馬の目を抜く」……。馬に関する慣用句や諺は数知れません。馬がいかに人と深くかかわってきたかがうかがわれます。

馬が最初に家畜化されたのは、今から5，000年ほど前の中央アジアでのこと。以来、人や荷を運んだり、物をひっぱったり、農耕を助けたり、戦場で働いたりと、さまざまな場面で大きな役割を果たしてきました。その国や地域に大昔からいる馬を「在来馬」と呼びますが、日本では現在、北海道、長野、宮崎、沖縄などに計8種類がいます。これらの馬の祖先が、いつごろ、どういうルートで日本列島に渡ってきたのかは、まだはっきり分かっていません。しかし、縄文・弥生時代には、役割ははっきりしないながら、馬がすでに家畜のように利用されていたようです。

古墳時代の遺跡からは馬の埴輪も出土しています。

馬は、古典にもしばしば登場します。最古の歌集といわれる「万葉集」には、馬を詠んだ歌が80首近くあり、馬が貴重であったことが読み取れます。たとえば、柿本人麻呂の歌。

山科の木幡の山を　馬はあれど
歩ゆ吾が来し　汝を念ひかね

「私には馬があるが、あなたを思う心に耐えかねて、山科の木幡の山道を歩いてきたのです。」という恋歌です。

人麻呂のように宮廷仕えする階級の人が馬を所有できたことが分かります。

「走る芸術」「馬の耳の念仏」

馬と聞くと真っ先に競馬を連想される人も多いと思います。馬同士を走り競わせる行事は、走馬、競馬などといって、奈良時代から行われていました。特に端午の節句（5月5日）の競馬は恒例で、ときの天皇が臨観したとの記録が残っています。

現代では、競馬といえばサラブレッド。より速く走るようにと、品種改良を重ねてつくりあげられた馬です。広い胸幅、よく発達した後躯、400キロを超す体を支える細い脚。たてがみをなびかせて走る姿は、「走る芸術品」といわれるだけあって、ほれぼれとする美しさです。

一方で「馬の耳に念仏」「馬耳東風」と、無反応、役立たずの代表のようにいわれる馬の耳。私たちが何気なく使ってしまう諺ですが、これは誤解と考えてよさそうです。

馬の耳は、前方にある物の距離を測るなど、優れた機能をもっています。「馬の耳に念仏」は、悠然とした馬の姿から連想されたものなのでしょうが、馬にとっては迷惑な話ですね。

馬は、人間の願いごとにも関係があります。そう、絵馬です。その昔、神に祈願してかなえられたとき、神馬とするように馬を献納しました。しかし、貧しい民は馬を納めることができないので、代わりに馬の絵を描いたり、馬の形に作った木片を献じたりしました。それが絵馬の始まりだといわれています。

午年の今年もまた、神社にはたくさんの絵馬が献納されることでしょう。1年を健康に、無事に過ごせますように、そして世界に平和が訪れますようにと、心から願わずにいられません。